

講義名	データでみる現代経済			授業形態	
担当教員	森澤 龍也	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

現代経済の動きを理解するためには、経済統計の活用が必須といえる。この講義では、データに基づいて現代経済をみるための基礎を学ぶ。より具体的には、代表的な経済統計を活用して現代経済の実相をみていくとともに、金融データを用いて、担当者の専門である金融の視点からも、現代経済の実態を分析したい。

到達目標

- (1) 代表的な経済統計（GDPやCPIなど）を学ぶことで、経済学をより深く理解することができるようになる。
- (2) データの動きから実際の経済で起こっている事柄を読み解くことができるようになる。
- (3) 経済の論理と経済データの動きの結びつきを理解することができるようになる。

提出課題

講義中課題（レポート課題など）を実施する予定である。また、一部講義回にて反転授業を実施する予定である。課題・反転授業は教科書を使用するので、準備しておいてもらいたい。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義時間中に適時、講評・解説の機会を設ける。

評価の基準

- ・講義中課題： 40%
- ・定期試験または最終確認演習： 60%

現時点では、対面式講義を前提に予定を組んでいるが、今後の状況次第では定期試験の代わりに最終確認演習を実施することも考えている。この点については、状況判断の見通しがつき次第、Ryuka Portalの掲示にて連絡する。

履修にあたっての注意・助言他

講義中での私語は厳禁である。

教科書

『レクチャー&エクササイズ金融論』 森澤龍也 新世社 2200円+税 9784883842223

参考文献

・参考文献については講義中に適時、紹介する。

その他

必要に応じて、担当者作成の講義レジュメおよび参考資料を配布する。

授業計画

- 1 データでみる現代経済序論
- 2 国民所得統計：GDPとは
- 3 国民所得統計：三面等価
- 4 日本の経済成長
- 5 日本の景気循環
- 6 日本の資金循環
- 7 要点確認（経済統計と時事討論）
- 8 お金の動き：マネーストック
- 9 お金の動き：マネタリーベース
- 10 物価の動き：インフレとデフレ
- 11 金利の動き
- 12 要点確認（経済統計と時事討論）
- 13 通貨・物価・金利と金融政策
- 14 通貨・物価・金利と金融政策
- 15 総復習

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/>	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	<input type="radio"/>	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・予習 2時間/回×15回：教科書や情報検索などによって今回の講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。
- ・復習 2時間/回×15回：教科書の再読、講義ノートの整理に取り組み、各回の内容に関する理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

経済情報学経済情報コース：
 DP(1) - どの関連性：目標(1) - (3)を達成することで共通DPに貢献できる。
 DP(2) - どの関連性：目標(1) - (3)を達成することで共通DPの「経済情報分析力」に貢献できる。
 経済情報学情報システムコース：
 DP(1) - どの関連性：目標(1) - (3)を達成することで共通DPに貢献できる。
 DP(3) - どの関連性：情報システムの仕組みを直接の考察の対象とはしていないが「情報処理能力、問題解決のための応用力を身につける」ことに貢献できる。
 経済学現代経済コース
 DP(1) - どの関連性：目標(1) - (3)を達成することで共通DPの「これまでの学問的成果の基礎を身に着け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察」することに貢献できる。
 DP(2) - どの関連性：目標(1) - (3)を達成することで共通DPの「世の中の動きを理解して、経済問題の諸問題に解決策を提案する」ことに貢献できる。
 経済学地域まなづくりコース：
 DP(1) - どの関連性：目標(1) - (3)を達成することで共通DPの「これまでの学問的成果の基礎を身に着け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察」することに貢献できる。
 DP(3) - どの関連性：特に地域社会の諸問題に考察対象を特定していない。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

対面講義の場合、状況が許せば一部の講義回で双方向型の討論形式を導入する予定である。講義中での積極的な参加・発言を期待する。レスポンスを使用する予定である。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

対面式講義として開講する予定である。（2022年2月15日現在）
 たたし、新型コロナウイルス感染症の状況により上記の開講方式については変更の可能性はある。その際はRyuka Portalの掲示にて連絡するので、講義連絡を常に確認してもらいたい。また、開講方式変更の際のシラバスについては修正される可能性がある。